

平成26年度第2回天理市地域公共交通活性化協議会議事録

平成26年11月5日(水)
午後2時00分～午後3時40分
天理市庁舎5階 533会議室

【開会】午後2時00分	
司会(部長)	<p>定刻となりましたので、これより平成26年度第2回天理市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。</p> <p>委員の皆様方には、大変お忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。</p> <p>本日、進行を務めさせていただきます、事務局の河北でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>まず当協議会会長であります並河天理市長がご挨拶を申し上げます。市長よろしくお願いたします。</p>
会長(市長)	<p>改めまして、みなさんお忙しい中、本日もご参集頂きましてありがとうございます。本日の議題については、お配りをさせて頂いております、協議会規約の改正並びに、平成25年度の決算報告がございます。</p> <p>また、デマンドタクシーでございますけれども、市立病院がメディカルセンターになったということ等も考えまして、特に北エリア櫛本辺りに住んでいらっしゃる皆さんから、高井病院に行くまでに市中心部をわざわざ経由しないと行けないというようなところを見直して欲しい等のご要望もございまして、そういった高井病院の乗降所についても増設をするということについて、ご審議を頂きたいと思っております。</p> <p>その他にも、平成21年から運用しておりますコミュニティバスが更新の時期を迎えておまして、こちらについては車いす等の乗降についても配慮して欲しいというような市民の皆さんのご要望もあったことから、検討させて頂いているものでございます。さらに、その他という項目でございますが、こちらにつきましては「天理都祁線沿線におけるモビリティ・マネジメント」ということで、菅原のアンケート等に基づきまして、また和歌山大学の辻本先生の方から実施報告をいただくことになっておりますので、辻本先生是非よろしくお願を申し上げます。</p> <p>また今後の展開ということですが、やはりコミュニティバスをどう活用していくか、これは地方創生の中でも非常に重要な項目になってきておまして、実証運行に加えて、例えば周遊観光の観点でサイクルと組み合わせていくのは、どうしたらいいのかであるとか、あるいは市のみが運行するというところだけではなくて、さまざまな病院もバスを運行されている中で、そういった病院のバスとどう連携していくのか、更には周辺市町村との連携ということも非常に重要になっているわけですが、今後の連携可能性ということについても、今後の方向性ということについて議論をさせて頂ければと思います。みなさん大変お忙しい中、長時間の審議で恐縮でございますが、いずれも重要な案件でございますので、どうぞよろしくお願申し上げます。</p>
司会(部長)	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>それでは、配付資料のご確認をお願いいたします。</p> <p>表紙の「次第」に続きまして、 資料1 協議会規約の一部改正（案）から資料4 天理市コミュニティバス車両の更新（案）について、さらに「今後の展開」までを1冊に綴ったものを配布させていただきます。</p> <p>また、資料番号は付していませんが、1枚ものの、本日の「座席表」及び「出席者名簿」、また、「路線バス天理都祁線（苜原系統）沿線におけるモビリティ・マネジメント実施報告書」を配布させていただきます。</p> <p>資料に不足はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、これより議事に移らせていただきます。 協議会規約第9条第1項の規定により、会長が議長の任にあたることとなっております。</p> <p>それでは、会長、議事の進行をお願いします。</p>
議長（市長）	<p>それでは、僭越ではございますけれども議長を務めさせていただきます。</p> <p>まずは、規約第9条第2項の規定によりまして、委員の過半数の出席があり、会議が成立していることを報告させていただきたいと思っております。</p> <p>また、協議会規約第9条第6項によりまして、委員以外の出席者として、有識者でございます和歌山大学経済学部 辻本勝久（つじもと かつひさ）教授にご出席いただいておりますのでどうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、議事に入らせて頂きたいと思っております。議題（1）協議会規約の一部改正（案）について、事務局から説明願います。資料につきましては、ページ1でございます。</p>
事務局 （金守主幹）	<p>議題（1）について説明（資料1）</p>
議長（市長）	<p>只今、事務局から説明がありました、議題（1）協議会規約の一部改正（案）について、若干法律の細かい議論がございましたが皆様から何かご質問等ございますでしょうか。</p> <p>特段ないということでしたら、議題（1）協議会規約の一部改正（案）については承認することについてご異議ございませんでしょうか。ありがとうございます。異議がないということですので承認することと致します。</p> <p>次に議題（2）平成25年度協議会決算報告について、事務局から説明願います。ページ番号としては8ページです。</p>
事務局 （山本補佐）	<p>議題（2）について説明（資料2）</p>
天理警察署 （丹山委員代理）	<p>監事による監査報告</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>只今、事務局からの説明、監事さんからの監査報告がありました、平成25年度協議会の決算についてですが、皆様から何かご質問等ございますでしょうか。</p>

近畿日本鉄道 (株)企画統括 部営業企画部 (福嶋委員)	一点だけよろしいでしょうか。補助金ですけれども、協議会としての歳入には上げずに、このコミバスあるいは、デマンドタクシーの委託料から差し引くという形で整理されていると思うんですけど、ちょっともう一回確認させていただきます。
事務局 (金守主幹)	この補助金については、協議会に直接入るのではなく、事業者様に直接入る補助金でございます。請求額は協議会から支払う金額はこの運賃、補助金差し引いた金額を協議会から支出しているという形になっておりますので、入れさせて頂いております。
議長(市長)	それでは、補助金、負担についてご質問頂きましたが、他に皆様からご質問等ございますでしょうか。よろしいですかね。それでは、議題(2)平成25年度協議会決算報告について、承認することで皆様ご異議ございませんでしょうか。異議なしということでございますので、承認することと致します。引き続きまして、議題(3)天理市デマンド型乗合タクシー運行エリアの拡充(案)について、事務局から説明をお願いします。資料として11ページ以降でございます。
事務局 (金守主幹)	議題(3)について説明
議長(市長)	それでは議題(3)天理市デマンド型乗合タクシー運行エリアの拡充(案)について、只今事務局から説明頂いた訳ですけれども、皆様ご質問等ございますでしょうか。特段ございませんでしたら、議題(3)につきましてご承認頂くということでご異議ございませんでしょうか。ありがとうございます。では異議なしということですので、承認させて頂きたいと思っております。続きまして議題(4)天理市コミュニティバス車両の更新(案)について、事務局から説明願います。
事務局 (京川課長)	議題(4)について説明
議長(市長)	只今、事務局から説明がありました議題(4)天理市コミュニティバス車両の更新(案)についてでございますけれども、皆様の方から何かご質問等ございますでしょうか。
奈良運輸支局 (山本委員代理稲留委員)	奈良運輸支局です。具体的な時期とか特に決まっていますでしょうか。
事務局 (京川課長)	ご審議いただいて奈良交通さんの方から車両届くまでには約4か月間の期間を要するとみております。また、狭い道路等ございますので警察のほうと相談させて頂いて大型通行規制、これが解除の手続きを行っておりますので、それがあがってから一刻も早く具体的に進めていきたいと考えております。
奈良運輸支局 (山本委員代理稲留委員)	早くてどれくらいですか。
事務局 (京川課長)	6月以降です。

事務局 (金守主幹)	早かったら6月くらいです。
議長(市長)	その他にご質問等いかがでございましょうか。
奈良運輸支局 (山本委員代理)	<p>補助金の関係ですけれども、補助金の交付が決定して購入しないといけないということがございまして、補助金の申請のスケジュールが通常の運行日までのリーダーと同じ6月末に計画をさせて頂くというような形になりまして、減価償却用補助の場合は6月末に計画申請頂いて、10月以降に交付という形になります。</p> <p>もう一つの公有民営の方ですけど、この点がちょっとスケジュールがいびつになっていまして、同じく締め切りは6月末なのですが、年度がずれておりまして、更に翌年の4月からしか今の制度上は導入できないというふうになっておりますので、これについて実は、あまりにも使い勝手が悪いので近畿運輸局の方から東京の方に要望をあげているところです。今回いろいろ法律の改正もありまして、補助金の見直す作業をしているところですので、その辺若干全体的に見直しがかかるかもしれませんが、スケジュールとしてはそういうことになっております。補助金を活用するのであれば、来年前半というのは難しいです。</p>
議長(市長)	いずれにしても活用させて頂くということに基づいて、スケジュールをねっていかないといけないのかなあとと思います。それはまた専門家の方と相談させて頂きます。補助金を活用する時期は先ほどおっしゃった時期よりは若干ずれてくることになってくると思います。
事務局(京川課長)	購入する方法にもよるかと思うのですが、それも合わせて調整させて頂きます。
議長(市長)	<p>またご指導頂ければ、頂ける形で申請をさせて頂きたいと思いますので。その他にご質問等ございますでしょうか。では只今の時期的なところについては、別途近畿運輸局様と調整ということでございますけれども、それを前提にしつつ本件についてご承認頂くということでご異議ございませんでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。異議なしということですので、承認することに致します。それではこれで議題の(1)から(4)までについては、終了致しますけれども、これまでの議題の中で何か改めてご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。それでは以上をもちまして議題の件については終了させて頂きますが、その他について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (金守主幹)	その他について説明 辻本先生紹介
和歌山大学教授(辻本勝久)	<p>ご紹介頂きました和歌山大学辻本です。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは早速でございますけれども、20分くらい時間頂きましてこの6月から9月にかけて天理都祁線の萱原系統の沿線で行いましてモビリティ・マネジメントの報告を行わせて頂きたいと思っております。</p> <p>まず資料を確認させて頂きたいと思っておりますけれども、今からご説明申し上げます資料一式がオレンジ色の封筒の中に入っておりますので、ご確認頂けますでしょうか。何が入っているかと申し上げますと、</p>

- ・モビリティ・マネジメント実施報告書
- ・別冊
- ・乗継時刻表
- ・A5版啓発冊子
- ・奈良交通発車時刻表

その5種類の資料がオレンジ色の封筒に入っていると思います。それらを使いながら説明をさせて頂きたいと思います。

それでは、モビリティ・マネジメント実施報告書をご覧ください。1枚めくって頂きまして、1ページ目をご覧くださいと思います。モビリティ・マネジメントというものなのですが、いま全国各地で鉄道なりバスの沿線等で、乗り継ぎの方法でありますとか、バスなり鉄道なりの時刻ですね、それから路線図でありますとか、丁寧に情報を沿線の住民の方などにお示しすることで、沿線の住民の方の公共交通利用意識が高まったり、実際の利用の促進に繋がったりとかそういう事例がたくさん見られています。

そういう取組のことをモビリティ・マネジメントと言うのですが、今回、天理市の路線バス天理都祁線苜原系統の沿線住民の方に対する、自宅の最寄りバス停からよく行く商業施設、病院までの乗継時刻表でありますとか、公共交通の利点をわかりやすく伝えるパンフレット等、そういうもので丁寧に沿線住民の方に公共交通の良さ等を伝え、実際、沿線住民の方のバスの利用の意識が高まるのかどうかでありますとか、利用促進につながったのか等、そういうものを効果測定するという取組を今回やって参りました。

それで1ページの調査の概要のところをご覧くださいますと、今回調査で対象と致しました地域につきましては、先ほど申し上げましたように天理都祁線の苜原系統の沿線の各町にお住いの方々ということになります。

今年の6月～9月までにかけて行いまして、手法と致しましてはモビリティ・マネジメントというもので、標準型TFPというややこしい用語が出ていますけれども、具体的なことは次のページの2ページ目の調査内容とスケジュールをご覧くださいますと、具体的なことがお分かり頂けるかなと思います。2ページ目の調査内容とスケジュールをご覧くださいと思います。

今回苜原系統の沿線の16歳以上の方々700名を無作為抽出致しまして、そこから天理教関係の外国籍の方や短期滞在の方などを除いて639名の方を対象に調査を行っております。そういう方々を対象に計3回のアンケート調査なり、各種の時刻表の配布をし、3回、沿線住民の方とコミュニケーションを致しました。

それで第1回目はどういうふうな形で行ったかということ、2ページの1番上のところに第1回目としてまとめておりますけれども、1回目は、6月の上旬に行ったわけですが、目的と致しまして、よく行く又は行ってみたい目的地、交通手段の把握、それから6月の段階でのバスの利用状況ですとか、交通と環境等に係る意識の把握を目的に、第1回目6月の上旬に調査を行いました。対象者は先ほど申し上げた通りで、沿線の639名の方を対象に行いまして、約4割弱の方から回答を頂いたということです。

それで6月の調査はそれで終わりますと、2回目の調査というのを7月の下旬に行いまして、ここでは何を行ったかと言いますと、コミュニケーションツール

の配布と書いてありますけれども、1 回目の 6 月の調査で沿線住民の方がよく行く商業施設どこですかとかいうふうに尋ねておりますので、だから一人ひとり答えが違うわけです。一人ひとりお近くのバス停も違えば、よく行く商業施設も違うということです。そういう中で、一人ひとりにカスタマイズした行き先及び時刻表、これを 237 名分作って、一人ひとりにカスタマイズした乗継時刻表をお届けするというを行いました。

それからそれに加えて最寄りバス停の時刻表、それから啓発冊子というものを 2 回目の調査で 237 名の方にお届けしたということです。その実物がお手元の封筒に入っております、小さなカラフルな一枚綴りの両面の時刻表があるのですが、お近くのバス停からの時刻表、これが一人ひとりカスタマイズした乗継時刻表の一例です。

今日お手元に配布している時刻表は、下山田というバス停から天理駅経由で「いちちょう号」に乗り換えての、イオンタウン天理までの例です。下山田の辺りに住んでいる方が、イオンタウン天理までの行き方を知りたいとアンケートに書いてこられましたので、それに対応した乗継時刻表を一人ひとりにお返ししました。もちろん下山田周辺に住んでいる方の中には、郡山の方のイオンに行きたいと考えていらっしゃる方いれば、難波までの行き方を知りたいと答えた方もいれば、多種多様な一人ひとりにカスタマイズして時刻表を作ってお配りしました。

それから啓発冊子というのは、A5 版の「車と公共交通機関を上手に使い分けてみませんか」という冊子になります。これは 237 名全員に同じものを配布しておりますけれども、公共交通の利点をわかりやすく伝えようというようなことで、車の利用と安全ですとか、車の利用と天候とかの関係ですとか、維持費などの費用面のこと、それから環境面から車の利用を考えようとか、そういうところであるような面から車の利用、ひいては公共交通の利点をお解かりいただこうと、そういうような手法で啓発冊子を作っております。それからお近くのバス停の奈良交通さんのお作りになっている時刻表そのものを一部ずつお送り致しました。というのが 2 回目の調査内容でございます。それから 3 回目ということで、9 月の下旬に効果の測定を目的と致しまして、こういう乗継別時刻表ですとか、啓発冊子等を配ってその効果はいかにということで、実際の沿線の住民の方々の公共交通利用の意識が高まったのか、あるいは実際の利用率があがったのかとか、そういうところを確かめるための調査が 3 回目です。アンケート調査で効果を確認するというものです。

それで 3 ページ目を見て頂きますと、ここから調査の結果になります。よく行く或いは行ってみたい買い物先はどこですかと、沿線の方に調査した結果が示めされております。3 ページ、4 ページです。図の 1 から沿線住民の方のよく行く、行ってみたい買い物先というのは、イオンタウン天理が圧倒的に多いです。ついで郡山のイオンモール、それから天理本通りがあるというのが一つわかりました。福住小学校区と山の辺小学校区で分けまして、双方で行ってみたい買い物先が違うのかということで見ますと、あまり顕著な差が見られないということがわかりました。

それから 4 ページの図 2 にありますように、よく行く、また行ってみたい買い物先への希望到着時刻は何時ですかと聞いたものですがけれども、午前 10 時台、

午後 2 時台そういったところのご希望が多いということがわかりました。それから図 3 にありますように、買い物先への交通手段については、自家用車が主流であるということがわかってきました。それから 5 ページ見て頂きますと、5 ページ、6 ページ、ここは、よく行く又は行き方を知っておきたい病院について尋ねた結果を示しております、5 ページの方は、これはよく行く、知っておきたい病院として、よろず相談所病院が圧倒的に希望が多く、その次に高井病院といったところです。それから福住小学校区と山の辺校区を比べてみますと、両校区で、よく行く又は行き方を知っておきたい病院については両校区で差があるということがわかっております。それから 6 ページの図 5 の円グラフで、病院への希望の到着時刻は何時ですか、ということですが、午前 9 時、午前 10 時台の希望が一番多い。その次は 8 時台ということです。それから 6 ページ下の図 6、病院への主な交通手段については自家用車が主流ですが、よろず病院につきましては自転車、徒歩の利用が 3 割弱。それからよろず病院、高井病院については路線バスの利用数パーセントあることがわかってきました。

それから 7 ページを見て頂きますと、図 7 は沿線住民の方々に自家用車の運転は、何歳ごろまでお続けになりますかとそういうことを聴きますと、半数以上の方が 80 歳以下というふうにお答えになったのですが、年代別に見ますと 70 歳台、80 歳以上の方は、85 歳なり 90 歳までというお答えになる比率が高まっているということです。

それから 8 ページ見て頂きますと、第 1 回目のアンケートの 6 月現在での天理都祁線苜原系統の利用状況を示したものです。これを見ますと、全く利用していないという方が回答者のうち半数弱。昔は利用していたけれど今は利用していないという方が 3 割強。併せますと今全く利用していませんという方が、回答者の 8 割以上であったということです。校区別に仕分けてみますと、福住小学校区の方は回答者のうち約 6 割が昔は利用していましたが、今は利用していませんというお答えでした。

それから自由記述で天理都祁線への意見を書いて頂いたところ 144 名の方からご意見が参りまして、うちちょうど半分の 72 件のご意見が便数の少なさをご指摘されております。それについて存続を希望する意見が 46 件、それからバス車両を小型化してはどうかという意見が 16 件、そういったような順番のお答えになっておりました。

それから続きまして 9 ページ見て頂きますと、ここからが今回のモビリティ・マネジメントで丁寧に情報提供することで、沿線住民の方の意識、行動が変わるのか、変わらないのかを示すパートになって参ります。この 9 ページ、10 ページ、11 ページまでが意識が変わるかどうかをみたものです。9 ページの上の方にまとめが書いてありますけれども、今回丁寧に啓発冊子を使いまして、車と環境の問題を解説したところ、自家用車ばかりを使うのは環境によくないと考える回答者の比率は、図 9 にありますように、配布する前は約 46%だったのが、約 69%まで増加するというふうな結果になっています。同様に自家用車ばかりで移動するのは健康によくないのではないかというふうに考える方、これは図 10 に示しておりますけれども、情報提供前は 55%だったのが、情報提供後は 64%ということで意識の変化がみられています。それから図 11 にありますように、自家用車での

移動は危険であるというふうに考える方は、情報提供前は 37%、これが情報提供後 54%ということで意識が向上しているのがわかります。それから 11 ページの図 12 にありますように、他の交通手段でも移動できる場合は自家用車での利用はできるだけ控えた方がよいというふうにお考えの方、情報提供前、約 55%だったものが、情報提供後約 78%ということで、この点でも意識の改善がみられています。

それから 11 ページの図 13 にありますように、情報提供した後の 9 月の段階で路線バスの天理都祁線、バスの利用というのが自家用車の利用よりも安全だと考える回答者の比率が 65.1%ということで、それだけの方がそのように考えるということがわかりました。それから路線バスの沿線で今は必要ないかもしれないけれども、将来的には必要ではないかというふうに答える方でありますとか、天理都祁線を積極的に利用しなければ休廃止のおそれがあると考える方の比率が 5 割を超えているということがわかってまいりました。

こういったことから今回丁寧に情報を提供することで、沿線の住民の方が交通手段について、環境、安全、健康、生活等の面から多面的にお考え頂く結果になりまして、それが意識を向上させるきっかけになったと考えております。

それから 12 ページですけれども、今回意識が変わるだけじゃなくて実際の利用の行動まで変わったかというのを見たのが 12 ページから 13 ページです。12 ページの図 14 の円グラフにありますように、配布前後 6 月と 9 月比べまして、9 月の段階で両状況が情報提供したのにもかかわらず、かわらないとする方が大半であるということです。一方少し増えましたという方も一割程度ということでありました。それから図 15 の横棒グラフにありますように、週に 1 日以上路線バス天理都祁線菅原系統を利用している、それから月に 1 日以上利用しているという方の回答比率がやや高まったということがありました。

それから 13 ページの図 16 にありますように、今回配ったお近くのバス停からの時刻表、一人ひとりにカスタマイズした乗継時刻表を実際に活用して、公共交通でお出かけしましたかと聞いたのですけれども、実際これを使って出かけましたという方が 1 割強です。それから今後活用して出かけるつもりであるという方が 1 割弱ということで、活用された方も結構いらっしゃるのかなあと思います。それから 13 ページの表 2 にありますように、これはご意見、要改善点等々を示したものですけれども、是非この地域の村の掲示板にポスター大で時刻表を貼るので送ってほしいとか、そういうふうなご意見も頂いております。

そういったようなことから、今回の取り組みで沿線住民の方々の交通手段を車からバス利用、公共交通利用へと大きく変化させる効果まではなかなか主張できないわけですが、ある程度公共交通利用促進の効果はあったのかなあと考えています。

それから 14 ページを見て頂きますと、今後路線バス天理都祁線利用につながるような情報はどのようなものがありますか、またどのような工夫があったら天理都祁線を使うのでしょうかということをお尋ねしたところ、もちろん運行本数を増やすとかそういうことはあるのですけれども、運送本数、それから時刻、運賃、運行経路は現状通りということをお前提とした上で、どういうことを工夫したらもっと利用して頂けるのかということをお答え頂いたところ、天理市周辺の情

	<p>報を一冊にまとめて、天理市時刻表を作って配布するというようなところが良いじゃないかというお答えが 3 割。それから天理都祁線を活用した催しの実施、それからお近くのバス停からの時刻表の目的地等の追加というものが 3 位になっております。</p> <p>以上のようなことを考えますと、各種の公共交通情報に啓発情報を加えて、天理市時刻表を作って配布するというのが 1 つ今後の方法としてあるのではないかなあと思います。それからお近くのバス停からの時刻表につきましては、沿線住民の主な目的地である、イオンタウン天理、天理本通り、イオンモール大和郡山、よろづ相談所病院、高井病院等へのもを出発バス停ごとに作成し、公民館等に掲示ないし、配布することが考えられます。</p> <p>それから最後に 16 ページ 5 で今回の取り組みのまとめをさせて頂いております。今回のモビリティ・マネジメント、丁寧な情報提供によりまして、沿線住民の方の意識は大きな変化が見られたことがわかりました。それから一部の住民の方には、公共交通の利用のきっかけを与える効果も見られました。それから 5-2 ですね、利用促進のための条件整理とモビリティ・マネジメントの同時展開が必要ということで、今回の調査で沿線住民の方の自由記述 72 名の方が天理都祁線の便数の少なさを指摘されております。それから福住小学校区の方の回答者 6 割の方が昔は使っていたけれども、今は使っていないというふうにお答えになっているということです。モビリティ・マネジメント自体効果はあるのですが、それだけでは限界があるかなということで、各沿線の方々を利用に導くための条件の整理とともにモビリティ・マネジメントを同時並行的に行うといったところが大事だと思います。</p> <p>それから 5-3、モビリティ・マネジメント本格展開ということで、今回行いましたモビリティ・マネジメント丁寧な情報提供でもって、沿線住民の方々等の意識、行動の変化を促していくという取り組み。これは天理都祁線以外のバス路線なり鉄道沿線でも実施可能なことですので、今回の結果を踏まえて、さまざまな取り組みに繋げていくということです。各職場で従業員を対象とするモビリティ・マネジメントを行う場合、学校でもモビリティ・マネジメントを行うわけです。さまざまな展開が考えられると思います。天理市でもモビリティ・マネジメントの本格的・継続的な取り組みというのは期待をしたいというふうに思っております。以上です</p>
議長（市長）	<p>辻本先生ありがとうございました。只今モビリティ・マネジメントの実証検証とその効果と課題、可能性、評価含めてお話を頂いたところでございますけれども、その点も踏まえまして今後の展開方向性は、ということで事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 （京川課長）	<p>今後の展開について説明</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございます。只今辻本先生からご説明頂いた、路線バスのモビリティ・マネジメント報告、及び事務局から説明ございました今後の展開案ということにつきまして、ユーザーに気づきを提供するような情報提供と共に、利便性向上をそこに合わせていくことが重要という認識に基づいて考えています。</p> <p>それらの点についてご質問並びに、ご意見等ございましたら是非ともよろしく</p>

	<p>お願いしたいと思います。いかがでございましょうか。運輸局様、県土マネジメント部様、もしよろしかったらいかがでしょうか。</p>
<p>奈良運輸支局 (山本委員代理)</p>	<p>奈良県は特に市町村合併がそれほど進んでいないということもあって、市町村の連携というのはかなり今後重要になってくるのかなあと考えておきまして、案を拝見させて頂きまして、たぶん県としてもいろいろ市町村間のコミュニティバスなどの連携に力を入れるという話をしておりまして、そういう意味では方向性としては、今やるべきことなのかなあと考えております。一点だけ例えば天理都祁線の同じ件などもそうですけれども、現行奈良交通さんが運行されているというところと、今度の実験で、おそらく空白の時間を埋めていくというイメージになると思うのですが、いろいろ運賃の設定だとか、いろんな面で奈良交通さんのお客さんをなるべく奪わないような形の案をご検討頂けたらなあと、実験ではあるのですが、かなりその辺は配慮した上で進めて頂けたらありがたいなあとと思います。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>しかし、そのような時間帯を狙っていかないと、利便性が全体として変わらないと、バスを使う意識づけにそもそもならないので、どんどん使わなくなっていくというところからすると、相乗効果という考えもあるというふうに思うのですが、奈良交通さんからご意見等ございましてでしょうか。</p>
<p>奈良交通(株) (川邊委員代理)</p>	<p>最終的にいろいろ詰まってきましたら、そういう点を含めていろいろお話させて頂きたいと思います。事業者の考え方でお客を増やすというのは非常に難しい。ですから既存のバスが走っているところに、行政さんが実験的にバスを走らせるということはイコール、パイの取り合いという認識がどうしてもなりがちなところですが、今回モビリティ・マネジメントの結果等を踏まえて、実験的にそういうことをすることによって、相乗的に全体のパイがあがって結果的に利用が増えるということになれば、それはそれで地域にとっても、事業者にとってもプラスになると考えております。</p> <p>今後、どういうふうに進んでいくのかということはあると思いますが、それが具体的に話が詰まってきた段階で、また調整させていただきたいと考えております。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>具体的な方法が決まりましたら、また別途事務局レベルで協議をさせて頂きたいと思います。辻本先生にご指摘頂きました通りそもそもバスを利用することが意識の中から欠落しているという方が大半という状況を、そもそもどう変えていく、公共交通機関を利用するというような意識づけをしていく上では、なかなか利便性が伴うという形でない、意味合いが変わってこないのかなあと考えておりますので、まず実証実験のところを取り合うというよりも是非とも御社にご協力頂ければと思います。そんな点も含めて辻本先生、ご意見なり、アドバイスなり頂けたらいかがでしょうか。</p>
<p>和歌山大学教授 (辻本勝久)</p>	<p>会長さんのおっしゃる通りで、今回モビリティ・マネジメントをやってみたのですが、意識が変わるだけで、利用促進に至る行動までなかなか思ったほど効果が出てこない。やはり意識が変わって、次の一歩として利便性向上が伴わないと。そこで民間の奈良交通さんと行政との連携ですね、お互いがまさに共存共栄するという形になれば、利用者もハッピー、公共交通を運営する側もハッピー</p>

	<p>一、地域もそれで住みやすくなって、それで全員が幸せになればそういう姿に持っていけばいいなと思っています。</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございます。情報提供頂いた結果として、天理駅で自分が1時間半以上待たなくてはいけないと認識するだけでは、二度と使わないと決意を新たにただけという人も多分いるかなあとと思います。やっぱりそうじゃない状況を作っていないといけないのかなあとと思います。車以外にも選択肢があるのだという方向にまずもっていないといけないと思います。特に民間の病院さんとの連携等々のところでは、法的側面も含めて、ご指導も頂かないといけない部分かなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>その他、折角の機会でございますので、交通各社の皆様ないし、地域あるいは高齢者代表の皆様に何かご意見とか頂けましたら、いかがでございましょうか。特段ございませんでしょうか。</p>
奈良交通(株) (川邊委員代理)	<p>先ほど天理都祁線実証実験ということで具体的に辻本先生の話の中で、上下整備しようということで、その一つとしてこういう形で徹底的に調べてみようということですが、ただ便を増やすというだけではなく、やはりもっと利用して頂きやすくするというので、例えば他市町村さんでは、通学定期の補助を市さんでされたり、高齢者の福祉乗車制度をされたりとか、利用者にとってメリットのあるようなことをされているケースがあつて、ただそれを全市に広げていったりしますと、財政負担になるわけですが、例えば今回そういう路線で実験的にする地域に限って、そのような制度実験的にやってみるということもこれからこれを進めていく中で、併せてやって頂ければ、その全体の底上げっていうのが図れるのかなあというふうに思います。</p>
議長（市長）	<p>動機付けとしてできる部分ですね、あとは費用対効果の部分であつたり、いろいろかなあと思うのですが、他市町村ないし、また奈良県ですと、こういった取り組みの効果があつたという事例がありましたら、どんどん教えていただければなあとと思います。今の時点で100円下がったら劇的に変わるかとかなあ、そういうことからすると利便性の部分も必要という合わせ技かなあというふうには思います。いかがでございましょう。</p> <p>その他、特段意見がなければ、以上をもってその他については終了したいと思います。最後に折角の折でございますので、本日の案件以外でも、もしお気づきの点等がございましたら、何か発言を頂ければと思いますけれども、皆さんいかがでございましょうか。</p> <p>よろしいですか。それでは以上をもちまして本日の議事を終了したいと思います。皆様本当にお忙しい中ありがとうございます。</p>
司会（部長）	<p>ご意見もないようでしたら、これをもちまして平成26年度第2回天理市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。長時間にわたるご審議ありがとうございます。</p>